

# 2008年度事業報告書

(2008年6月1日～2009年5月31日)

特定非営利活動法人  
冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク



目次	・・・・・・・・・・	p.1
2008 年度事業概要	・・・・・・・・・・	p.2
1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、 それを広げる事業	・・・・・・・・・・	p.3
2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業	・・・・・・・・・・	p.3
3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業	・・・・・・・・・・	p.4
4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業	・・・・・・・・・・	p.4
5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業	・・・・・・・・・・	p.5
6. プレーリーダーの養成に係る事業	・・・・・・・・・・	p.6
7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業	・・・・・・・・・・	p.9
8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業		
指定管理事業「海岸公園冒険広場」	・・・・・・・・・・	P9
事業実施表／海岸公園自主事業	・・・・・・・・・・	P11

## 2008年度（08年6月1日～09年5月31日）事業概要

本年度は海岸公園の一部（冒険広場及びキャンプ場を含む。以下、「冒広」という）の指定管理事業の第2期初年度にあたる。年度変わりに、プレーリーダー統括責任者の交代があった。第1期の高い評価を持続し、さらに市民に愛される冒広に発展させることを目指すために、後任者の確保は重要な課題であった。幸い、経験ある人材を雇用することができ、前任者との引き継ぎも退任時期を延ばして、一緒に働く期間を設けたことでスムーズに行われた。

今回の職員交代については、確かなプレーリーダーを育てることへの必要性・重要性を強く認識することとなった。今後、地域で育った者が運営に関わる体制をつくりあげる必要がある。ネットワークとしては、開園日数を増している「西公園プレーパーク」や本格的開設が予定されている「りふ・プレーパーク」の事業などに向けて、その養成プログラムの支援の拡充が求められる。近年増えつつある、プレーリーダー派遣の要請についても資金的裏づけ等も検討していく必要があるだろう。そんな思いを込めて、カメイ社会教育振興財団の支援を得た、プレーリーダー養成に取り組んだ。次年度以降にも、継続が求められる事業として位置づけられる。

当会の事務所（仙台市青葉区国分町）は、順調に稼働している。多少手狭だが、理事会も当所で開催されている。年度途中から、毎月の理事会が明確な決議事項を要しないことが多いという理由で、理事会と協議会に分け、全理事の出席を求める理事会は3ヶ月に1度で開催することにした。他の月は話題に応じてプレーリーダーやサポーター等にも開かれた会とすることにした。その意図は、事務所に事務局員以外の多くの関係者が集い、広報、調査・研究などの担い手の輪を広げられるようにすることにある。しかし残念ながら協議会の活性化は今後の課題である。

ここで若干事業費にかかる問題に触れておきたい。当NPO法人の活動にかかる事業費は、一般経済社会の慣例のなかでの取引と、ボランティア活動社会の尾を引く取引が混在した形態となっている。そのなかで冒広の事業は当NPO法人と株式会社のジョイントベンチャーであり、その協働が細かな点で難しい。ノンプロフィットで会のミッションを追うと、仕事が増えて自ずとボランティア価格が台頭し、株式会社の利益を求める価格との格差が気になる。そんななかでのNPO法人としての適正な事業費の骨格を確立する必要がある。

## ① 子どもの育ちを支える地域活動を行う団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

西公園や利府の活動の積み重ねの結果、それぞれの地域での認知度や評価が高まり、ネットワークづくりの新たな展開が可能な段階に達したと思われる。今年度は、プレーリーダー養成講座をきっかけに、県内で冒険遊び場活動に取り組んでいる団体が集結し、それぞれの問題点を話し合う場や懇親会を設けることができた。さらに、養成事業で各地の遊び場(プレーパーク)で現場研修ができたことは、受講者のみならず、受け入れ団体にとってもよい刺激になったことと思う。これからは、単なる理事会での連絡調整にとどまらず、各活動団体どうしの連携をさらに深めていくことを検討したい。

### ■理事会時における当会団体会員及び他団体の活動報告

6月12日、7月8日、8月26日、9月12日、10月9日、11月27日、2月27日、5月15日

### ■他団体とのネットワーク

冒険遊び場新年交流会(1月11日：当会企画)

泉子どもの日フェスティバル参加(5月5日：特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ企画)

メディアテーク de ちびパーク(1月19～21日、2月9～11日：西公園プレーパークの会)

\*搬出入の補助、展示作業、県内プレーパークの展示取りまとめ

子どもの遊び環境と生活のリズム(2月12日：西公園プレーパークの会)

\*当会養成講座のひとつとして協力を仰ぐ。

\*会場予約・打合わせ等の事務、講師接待等の当日実務の補助。

## ② 「冒険遊び場」の活動等に関する情報の収集、ならびに提供に係る事業情報

### ■会報「はらっぱ」発行

15号 2008年8月発行

・総会のまとめ ・遊び場で活動している人の紹介「遊び場の顔」

16号 2008年12月

・地域との連携 各団体の地域とのかかわりの様子を特集 ・第5年度役員紹介

17号 2009年5月

・冒険遊び場(プレーパーク)が発信する安全安心まちづくり

・プレーリーダー養成講座報告 ・総会のお知らせ

### ■CANPAN(日本財団HP)、せんだい・みやぎNPOセンター情報ライブラリーに登録

### ■メールマガジン受信

・EPO東北(東北環境パートナーシップオフィス)より「えぼめーる通信」

・防災教育チャレンジプラン(実行委員会)

・みんなメルマガ(特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)

### ■メーリングリスト

・asobo022(グループ管理者)

### ■調査協力

・全国NPOアンケート(9月)、共同企業体による指定管理施設の管理運営に関する調査(11月)

・少子化社会対策に関する先進的取組事例調査(5月)

### ③ 地域の子育て、遊びに係る調査・研究事業

#### ■社々かんきょうレスキュー隊事業「いろ色発見隊～季節のカメラマン～」

冒険広場・自主事業として実施してきた「ちびひろ」の3年間の事業を活かし「1・2・3 歳児の遊びと環境」への提案として仙台市環境局・環境教育プログラム―幼児編―に取り組んだ。

子ども達は森や公園の散歩や遊びを通して季節（四季）を体感し自然に興味関心を持つことで「幼児期におけるあそび環境」の学びの入口となるようにプログラムを作成。年齢を問わず自分の意思で関われる、あそび環境の保障を生活の中で作っていくことが大切であると思われる。生活の場所を生かした幼児向けのプログラムになった。

当プログラムは環境局が窓口となり、幼稚園・保育所・子育て支援など、年齢や学年に合わせた幅広いプログラムとして実施展開されることになる。

今後は、当プログラムを展開しながら遊びの理解と広がりになるよう環境局と一緒に積極的なプログラムの実践をする。

### ④ 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

冒険遊び場の理念を広めるために、海岸公園冒険広場への研修受け入れ、講演やワークショップ等への講師派遣、子どもに関わる団体への後援等を行った。

#### ■平成 20 年度 10 年経験者研修（社会体験研修）受け入れ（8 月 8～9 日：東六郷小教諭）

#### ■宮城野区社協ワークキャンプ（8 月 22 日：防災）

#### ■インターンシップ受け入れ（山形大学より 8 月 19 日～25 日）

#### ■講師派遣

- ・6 月 30 日～7 月 1 日／第 10 回東北の児童館・放課後児童クラブ学びと交流の集い（実行委員会主催）、パネラーとして今井理事を派遣
- ・東口ゆうえんち（中央市民センター主催） この事業を学生や一般住民が主体的に作り上げるためのコーディネーターとして、高橋悦子理事を派遣
- ・2 月 11 日／子どもの遊び環境と生活のリズム（西公園プレーパークの会主催）シンポジストとして大村理事を派遣

#### ■後援

- ・猫塚古墳ねこまつり（9 月 28 日：実行委員会主催）名義後援
- ・みちのくの自然の魅力を子どもたちに伝えよう 2008（11 月 30 日：東北自然体験活動学習リーダーズネットワーク主催）名義後援

#### ■その他

- ・仙台市より、「仙台 21 プラン」についてのヒアリング

⑤ 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

■みやぎ県民大学自主企画講座 「防災・減災まちづくり」



2006年から取り組んできた防災・減災の事業は、今年度は宮城県の委託事業「みやぎ県民大学自主企画講座」に応募し、「防災減災・自分の命は自分で守る」をテーマにした「防災減災パンフレット」を作成した。これにより、遊びを導入した公園での取り組みを、パンフレットを使いながら各学校・地域・行政との連携を図っていく。

今後は、コマ割けをして、地域・年齢・目的に合わせた実践を行っていく。冒険遊び場の拡張に繋がると考えられる。

(東北日本技術士会研究大会で提案)

みやぎ県民大学講座実施についての評価

	評価
企画	宮城県沖地震の発生から、ちょうど30年が経った。その再来が危惧される中、県民の防災に対する意識は高まっているが、実際にはこれといった対策をしていない家庭も多い。そこで、子どもたちへの防災教育を通して、地域全体の防災・減災意識を高める講座を企画した。
準備	現在の小中学生の親世代は30年前の記憶がないため、子どもたちへ直接当時の様子を伝えるには、「語り部」の存在が必要である。そこで、防災意識の高い町内会や東北福祉大学減災センターと協力し、講座の参加者に対し、専門的すぎず且つ目的を得た内容にするために、事前に企画会議を設けた。
実施	若年層にも働きかけ、異世代が交流しながら企画立案能力を高めることを目標に掲げ、学習することからスタートした。宮城県沖地震の体験談を含め、最近おこった新潟などの被災地の様子から、避難所の運営について考えた。また、災害時において、子どもは弱者ではなく、むしろ防災・減災の担い手になりえる、という昨年来の考え方のもとに、子どもの防災意識を高めるプログラムづくりをし、実際に子どもたちに体験してもらい、修正をし、携帯できるツールづくりをした。
効果	冒険遊び場と防災教育は一見関係ないように思われがちだが、「遊び」も「防災」も特定の場所でしかできないのではなく、どこでも誰でも実践できる活動として広がりができた。 プログラム作成と同時に、人材育成や防災ツール作りも行うという盛りだくさんの企画であったが、いろいろな年齢層で構成された受講生によって、各世代の経験や発想の違いをうまく生かした内容となった。
今後に向けて	今回作成したものが、どの地域や学校でも活用される「防災・減災ツール」として実用されることを望んでいる。今後とも、プログラム作成過程で得た知識や情報をまとめ、人材の育成をすすめていきたい。
その他	今回は、防災・減災という切り口で活動を進めたが、NPOの「やる気とハウツー」をもって、少子・高齢化社会の中で、失われつつあるコミュニティを、新たに構築していく助けとしていきたい。

■NPOで高校生の夏ボラ体験2008（主催：特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる）

7月23日～8月18日にかけて、18人の高校生ボランティアを受け入れた。

子どもとの関わり等を目的にしている参加者がほとんどだったため、作業より来園者との関わりの方を中心に動いてもらった。最初は積極的に関わることができない参加者が多かったが、公園の雰囲気などに慣れ始めてから、次第に子どもと積極的に関わられるようになっていた。普段から親戚や知人等の子どもと関わりがあるボラ体験者は、すぐに子どもと仲良くなった。子ども達は、そんなボラ体験者にくっついて歩いている光景もみられた。（子ども達と日常関わっている人間は強い）ただ、友達同士での参加者は、常に一緒に行動していたり、ボラ同士の特有の世界を作っていく様子が気になった。（こちらから声かけをすることもあったが、最終的には本人の意識によるものと考え、今後の受け入れについては「この機会に何かを得たい」と思えるように、募集・受入れ段階で冒険広場の運営目的等をきちんと伝え、理解してもらえるよう、しっかりした意識を持って受け入れていく姿勢が必要であると考える。）

⑥ プレーリーダーの養成に係る事業

■全国拡大プレーリーダー会（プレーパークせたがや主催）に、海岸公園プレーリーダーを派遣し、研修を受けた。

■遊び・遊び場にかかわる大人のための研修

（財）カメイ社会教育振興財団からの助成を受け、プレーリーダー養成講座を企画・開催した。

宮城県内にある冒険遊び場（プレーパーク）にかかわる人たちが交流し、子どもたちの今と未来にかかわる想いや、日ごろの活動の悩みなどを出し合い、「子どもと向き合うとき、自分たちはどうあるべきか」という研修を進めようと考えた。1月からの一般解放講座は、講師陣に遊び場の関係者ばかりでなく、コーチングやホリスティック、子ども学、など多方面で活躍する講師陣を招聘した。参加者も、高校生、専門学校生、大学生、会社員、行政職員、児童館職員、教員などいろいろな年齢・職業の人が集まり、それぞれの「気づき」を大切に持ち帰ることができた。

1. 実施日時

①企画会議…当会理事、プレーリーダー、県内各プレーパーク世話人が集まり、講座の企画・立案を行なう。養成講座のねらい及びプログラム作成。

【実施日】6月4日、18日、7月16日、22日、8月22日、9月6日、12日、10月15日、26日、11月5日、16日、27日、12月17日、27日

②県内プレーパーク交流会…県内ですでに活動をしている団体が集まり、各団体がかかえている問題を出し合い、人材の育成と確保、プレーパークの理念を広める方法等について話し合った。

【実施日】7月16日、1月11日、2月11日

2. 講座について

●…運営者向け

月 日	場所：時間	内容・講師
1月11日 (日)	仙台市民会館和室 16:00-18:00	「今どきの子どもの放課後事情」 (児童厚生員・山本 恵理子)
1月19日 (月)	若林消防署 18:00-21:00	「救命講習会」 (若林消防署職員)

1月24日 (土)	仙台市民会館 10:00-12:00 15:30-17:00 西公園 13:00-15:00	オリエンテーション 「遊び場への大人のかかわり」 (冒険広場プレーリーダー 根本 暁生)  現場研修① (協力：西公園プレーパークの会)
1月31日 (土)	エル・ソーラ仙台 大研修室 18:30-20:30	●「コミュニケーションスキル～コーチングに学ぶ」 生涯学習開発財団認定プロコーチ フリーアナウンサー阿部 侑生氏
2月11日 (水・祝)	せんだい メディアテーク 7Fスタジオアター 13:30-16:00	「子どもの遊び環境と生活のリズム」 深谷 昌志 氏(東京成徳大学子ども学部長) 大村 虔一 氏(特定非営利活動法人冒険あそび場- せんだい・みやぎネットワーク代表理事)
2月14日 (土)	利府町沢乙北公園 9:00-15:00	現場研修② (協力： りふ・プレーパーク)
2月15日 (日)	利府町沢乙北公園 9:00-15:00	現場研修③ (協力：りふ・プレーパーク )
2月21日 (土)	古城コミセン 18:00-21:00	●「子どもの遊びを支える大人を巻き込む」 (フリーランスプレーリーダー 荒田直輝)
2月22日 (日)	仙台市立古城小学校 校庭 9:00-15:00	現場研修④ (協力：ふるじろプレーパークの会)
3月1日(日)	情報・産業プラザ 情報化研修室 ① 10:00-12:30 ② 14:00-16:30	①「子どもの権利条約～自分を知る」 ●②「問題解決・創造カトレーニング」 (ホリスティック教育実践研究所所長 金 香百合)
3月7日(土)	海岸公園冒険広場 9:00-15:00	現場研修⑤ (冒険広場プレーリーダー 根本暁生)
3月15日 (日)	エル・ソーラ仙台 研修室2 10:00-12:00	振り返りと今後の展望 (冒険広場プレーリーダー 根本暁生 当会理事 高橋和恵)

### 3、講師について

#### 山本 恵理子 (やまもと えりこ/えりたん)

東京と仙台の児童館で20数年勤務。子どもたちの放課後の遊びを支えてきた。仙台では台原の仙台冒険あそび場の活動に参加。児童館では地域のお父さんを巻き込み小屋作りや子どもたちといかだで川下りをしたり卒にとらわれない面白い遊びを仕掛けるパワフルな女性。

◎彼女が見てきた子どもたちとその遊び環境の変化を中心にした話。



阿部 侑生 (あべ ゆき)

東北学院大学卒業。ミヤギテレビの人気番組「OH!バンドス」で10年間リポーターとして活躍し、ユッキーの愛称でお茶の間の人気者となる。

2005年からコーチ養成機関「COACH21」でコーチングを学ぶ。

2007年「株式会社セレンディピティ」代表取締役に就任。アナウンサーの経験とコーチングを取り入れたコミュニケーションセミナーを主催。

スマイルパワーとコーチングをとりいれた仙台初のコミュニケーションセミナーや、人に好かれる話し方などのパフォーマンス講座も好評。各業種の社内セミナー講師としても活躍中の一児の母。パーソナルカラーアナリストの資格を持つ。(財)生涯学習開発財団認定コーチ。



◎組織内での人間関係を円滑にするには、自分のタイプを知ること。弱点や強みを知ることによって自分のことを理解し認めることができる。自分の特性を知り、他者を認め円滑な関係を築くためのスキルをコーチングから学ぶ。

深谷 昌志 (ふかや まさし)

東京成徳大学子ども学部教授(教育社会学、教育史)

昭和8年東京生まれ。昭和32年東京教育大学卒業。

昭和40年東京教育大学大学院博士課程終了。

教育学博士。奈良教育大学教授、放送大学教授、静岡大学教授などを経て現職。教育社会学専攻。

● 著書

「昭和の子ども生活史」黎明書房 「親孝行の終焉」黎明書房

「学校とは何か」北大路書房 他

◎子どもの問題を30年以上追いかけてきた深谷先生が、「子どもの放課後全国調査」を実施。西公園プレーパークの会が行なった『子どもの生活リズム向上のための調査』の結果を踏まえ、当会代表理事大村と対談。



荒田 直輝 (あらた なおき/あちゅ)

1974年生まれ。京都市出身。24歳の時、偶然目にした世田谷のプレーリーダー募集チラシをきっかけにプレーリーダーとなる。

りふ・プレーパークや、ふるじろプレーパークにも度々おとずれ、在仙の子どもたちや親からも慕われている。

◎各地のプレーパークで経験したことをもとに、子どもたちとの向き合い方、地域住民との対応など、子どもの遊びを支える大人のあり方について話す。



金香百合 (きむ かゆり)

在日韓国朝鮮人三世として大阪に生まれ育つ。

大学卒業後に財団法人大阪YWCAに就職。そこでの働きをとおして、平和教育、人権教育、子ども、女性、障がい者、高齢者、外国人、国際協力、異文化理解、ボランティア、企画力、ジェンダー、心のケア、生と死などの多様な問題に出会い、取り組んできた。

1996年 大阪YWCA教育総合研究所を設立し、参加体験型学習による学びのファシリテーターとして全国各地で活躍。

2002年 大阪YWCA教育総合研究所所長を辞任し、顧問になる。

2002年 HEALホリスティック教育実践研究所を立ち上げ、所長に就任。

2008年 eトコ★ウリハウス開設

◎まず、自分を好きになり元気になる事が大事。細分化された部分にとらわれるのではなく全体の「つながり」「バランス」「関係性」を大切にする「ホリスティック教育」をすすめている。



#### 4、成果及び結果

子どもの遊びにかかわる大人のための研修は、今まで「子どもを遊ばせるための方法論」に陥りやすかったが、企画会議を重ねるうちに、かかわる人自身の問題に気づきそれを受け止め受け入れることから始まると考えた。プレーリーダーに求められるものは、子どもが自分自身を育てる力を信じ、見守り、そして世代を超えた人と人をつなぐことである。そのための自分自身のあり方、他者との向き合い方を、教育・遊育・心理学・社会学などに造詣が深い講師陣から学ぶことができた。

また、県内のプレーパークの関係者が一堂に会し、近い将来プレーパークを支え、地域を拓く人材育成について、語り合うことができた。それぞれの団体が、自身の運営に精一杯でなかなか揃うことがなかったが、この講座が一定の成果を得ることができた達成感をもって、今後も協働していく機運が盛り上がった。

子どもの環境を取り巻く現状は厳しいものがあるが、受講者・主催者ともに前向きに活動していこうということが確認された。

#### 5、今後の課題等

当会では、「遊び」を通して子どもたちの「生きる力」を育む活動をしているが、プレーリーダーの養成は急務である。子どもたちが自らを育てるための「子育て支援」のために、学校・家庭・地域を巻き込み、それらをつなぐ人材としてもプレーリーダーの育成に特に力を入れていこうと思う。

平成 17 年度から当会が指定管理をしている海岸公園冒険広場では、県内初の常駐プレーリーダーを雇用している。ここを足がかりに、多くのプレーリーダーを輩出し、各地に子どもたちの笑い声が響くよう、きめの細かい養成講座を開催していきたい。

#### ⑦ 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

冒険遊び場づくりや子どもの遊ぶ環境に関する社会的な基盤づくりについて、自治体や企業、地域社会などに向けて提言していくことは、当会にとって大事な使命と考えている。海岸公園冒険広場の指定管理や啓蒙活動を通して、冒険遊び場の社会的役割について提言していけるよう、充実した活動を続けていきたい。

前年度に引き続き、利府町「(仮称)子どもの森」の整備について、町の動きに沿って対応しようと考えている。まだ、大きな動きはないが開園に向けて見守っていきたい。

#### ⑧ 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

##### ■指定管理事業「海岸公園冒険広場」

平成 20 年度は、当共同体が指定管理者となって 2 期目の一年目。指定管理者として、通算 4 年目の管理運営となる。1 期目に引き続き、行政・企業・NPO・地域の連携により貴重な公共空間を守り育てることができたと考えている。多客期には天候にも恵まれ、過去最大の来園者数（推計値 187,140 人）・デイキャンプ場利用数（1,975 サイト 16,192 人）となった。また、自主事業の実施開催などにより、公園サポーターや事業へのボランティア参加が増えると共に、新たな地域とのつながりも生まれてきている。小学校・幼稚園・保育園・各団体の遠足や総合学習・研修等での公園利用も増え、場所活用の幅が大きくひろがっている。地元の町内会、学校、授産施設、行政各機関等から構成する運営委員会も引き続き開催することができ、通算で 7 回となった。公園の利用状況・自主事業の内容を報告すると共に運営・管理に関する意見・要望を聞いて公園の運営に活かした。

本公園は、やりたいことを自由にできる「冒険遊び場」がその特色だが、自由に遊ぶことを通して子どもたち自身が考え創造できる場の提供ができた。「遊び」を通して子どもたちの社会力を育む場

として、大人の理解者も増えてきている。また「自分の責任で自由に遊ぶ」の趣旨・目的を利用者に伝え、過保護で過剰な管理を行わない方針や「自ら参加できる公園づくり」の考え方は公園の運営にも活かされ、利用しやすく、再来園したいと思える公園の実現につながられていると考えている。公園利用の様子から、人・場所への考え方に大きな変化が見られるようになってきたと感じている。

自主事業は、子育て支援や環境教育という分野から広く公園を捉え、当公園の果たす役割を参加者が自ら考え行動できるよう実施してきた。

平成20年度は、地元農家の協力で子どもたちが野菜の販売経験をする「ほうひろ市場」を実験的に開催。貴重な体験の場であると共に地域のつながりをひろげるものとなった。

未就園児の親子を対象にした子育て支援の事業である「ちびひろ」の実践は、20年度仙台市環境局「杜々かんきょうレスキュー隊事業」の環境学習プログラムとして作成し提案することができた。また、冒険遊び場で2年間取り組み実施した防災・減災事業は、「防災減災パンフレット」の作成（県の委託事業として作成）へとつながった。

今後は、上記2件の提案を地域や学校・各施設等へ積極的に発信し実践していく事になる。

なお、本年度より「スタッフ会議」（月1回・休園日）を自主的に開催し、情報の共有をしながら積極的に公園について検証し取り組みを行ってきた。

また、仙台市消防局（防災安全課）による津波対策の勉強会を行うなど、各所と協議してAED設置するなど、事故や災害に備えた。遊具点検においては「遊具の日常点検講習（日本公園協会・日本公園施設業協会主催）」を受講したうえで、本園の各遊具にあわせた点検方法を工夫するなど積極的に取り組んだ。



平成 20 年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成 21 年 5 月 31 日 現在

営利活動法人冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク

科 目 ・ 摘 要		金 額 (単位:円)		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金手元在高	公園	497,022		
同	ネット	435,279		
普通預金	仙台市役所	500,727		
同	同	1,455,479		
同	宮城町支店	7,896		
同	名掛丁支店	99,173		
未収金	函南商事	117,934		
同	仙台コココーラ他2件	202,631		
同	会費	12,000		
敷金	日東ハイツ	90,000		
前払金	室料	3,600		
	流動資産合計		3,421,741	
2 固定資産				
	固定資産合計		0	
	資産合計			3,421,741
II 負債の部				
1 流動負債				
未払金	社会保険他	138,778		
同	諸経費5月分			
前受金	会費	2,000		
預り金	社会保険	12,267		
同	源泉所得税	500		
	流動負債合計		153,545	
2 固定負債				
	固定負債合計		0	
	負債合計			153,545
正味財産				3,268,196

## 平成 20 年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成 21 年 5 月 31 日 現在

特定非営利活動法人冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク

科 目		金 額 (単位:円)		科 目		金 額 (単位:円)	
I	資産の部			II	負債の部		
1	流動資産			1	流動負債		
	現金及び預金	2,995,576			未払金	138,778	
	未収金	332,565			前受金	2,000	
	前払金	3,600			預り金	12,767	
	敷金	90,000			流動負債合計		153,545
	流動資産合計		3,421,741				
2	固定資産			2	固定負債		
					負債合計		153,545
				III	正味財産の部		
					前期繰越正味財産	△1,837,439	
					当期正味財産増加額	452,991	
					正味財産合計		3,268,196
	資産合計		3,421,741		負債及び正味財産合計		3,421,741

## 平成 20 年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

平成 20 年 6 月 1 日 から 平成 21 年 5 月 31 日 まで

特定非営利活動法人冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク

科 目	金 額 (単位：円)	
(資金収支の部)		
I 経常収入の部		
1 入会金収入		
2 会費収入		
正会員会費収入	64,000	
賛助会員会費収入	34,000	
団体会員会費収入	17,000	115,000
3 事業収入		
事業収入	23,323,691	
他事業収入	2,257,678	25,581,369
4 補助金等収入		
5 負担金収入		
6 寄付金収入		
寄付金収入	273,791	273,791
7 雑収入		
受取利息	5,162	
雑収入	180,455	185,617
経常収入合計		26,155,777
II 経常支出の部		
1 事業費		
給料手当	10,077,101	
法定福利費	996,022	
福利厚生費	98,750	
会議費	133,863	
外注費	5,647,215	
旅費交通費	895,937	
通信費	262,357	
消耗品費	666,340	
事務消耗品費	240,741	
修繕費	70,875	
印刷費	1,410	
光熱水料費	289,719	
リース料	23,080	
保険料	79,972	
諸謝金	135,000	
租税公課	933,200	
仕入費用	90,376	
手数料	11,970	
ネット事業支出	539,218	
地代	10,800	
新聞図書費	59,820	
広告宣伝費	39,900	
雑費	55,880	21,359,546
2 管理費		
給料手当	1,837,800	
事務消耗費	141,823	
会議費	100,621	
旅費交通費	369,090	
通信費	166,696	
消耗品費	68,219	
印刷費	8,652	
光熱水料費	92,744	
リース料	144,610	
諸謝金	275,000	
租税公課	120,400	

3001006 特定非営利活動法人冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク

科 目	金 額 (単位：円)		
研修費	12,000		
支払手数料	9,460		
地代家賃	540,000		
新聞図書費	2,100		
雑費	454,025	4,343,240	
経常支出合計			25,702,786
経常収支差額			452,991
Ⅲ その他資金収入の部			
1 固定資産売却収入			
2 敷金・保証金収入			
3 借入金返済収入			
4 特定預金収入			
5 繰入金収入			
Ⅳ その他資金支出の部			
1 固定資産取得支出			
2 敷金・保証金支出			
3 借入金返済支出			
4 特定預金支出			
5 繰入金支出			
当期収支差額			452,991
前期繰越収支差額			2,815,205
次期繰越収支差額			3,268,196
(正味財産増減の部)			
Ⅴ 正味財産増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額		452,991	
2 負債減少額			
増加額合計			452,991
Ⅵ 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
2 負債増加額			
当期正味財産増加額			452,991
前期繰越正味財産			2,815,205
当期正味財産合計			3,268,196